

組合も“自己変革力”で 新たな価値を見出す。

自己変革力が必要な時代へ

伴走支援による新たな取組へ

原油・原材料価格の高騰、深刻な人手不足、事業承継・後継者問題、国際情勢等、組合（業界）を取り巻く環境が激変するような不確実性の高い時代にあっては、その変化に柔軟に対応する「自己変革力」が不可欠です。

その中、組合（業界）が活性化するためにも、既存の在り方にこだわらず、新たな領域へ踏み出すことが重要となります。



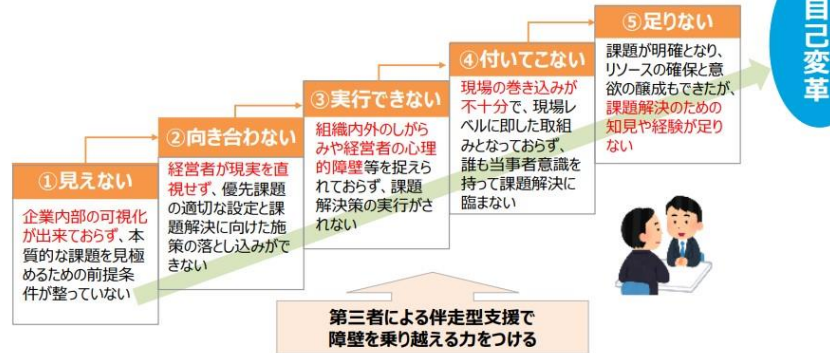
しかし、組合が単独で新たな取組に挑むことは困難です。

そこで、第三者による伴走支援を通じて、“共創”することで、新たな方向性を創出することが求められます。

これまでの従来にとらわれない発想から、本質的課題の壁を乗り越えることで、組合活性化につながり、最終的に「自走化」を意識した自己変革力が養われます。



自己変革への「5つの壁」

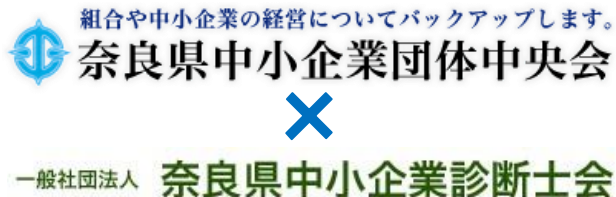


(参考) 「中小企業白書2022」第3章共通基盤としての取引適正化とデジタル化、経営力再構築伴走支援より

例えばこんな課題はありませんか？

- [ケース1] 組合としての存在価値が見い出せず困っている。組合員のための新たな取組を検討したい。
- [ケース2] 既存事業の収益確保が困難な状況。事業の見直し、または新規事業を検討したいので専門家の継続的なバックアップがほしい。
- [ケース3] 組合役員が一新された。この機会に組合としての存在意義を改めて見直したい。
- [ケース4] 次世代育成の一環として組合青年部に期待。青年部を中心に組合の活性化策を計画したい。

経験豊富な専門家とともに、中央会指導員が新たな取組に向けて全力サポート！



「対話と傾聴」「代表者の腹落ち」「自己変革力の創出」を通じて“本質的課題”を解決するために「専門家」と「中央会」が徹底した伴走支援を行うプログラム
それが、**がんばる組合経営力強化・再構築支援プログラム**

プログラムの流れ

7月18日（火）▶▶▶ **キックオフセミナー（無料）** 場所：ホテル日航奈良（羽衣）
14:00~16:00

本事業の理解を深めるためのキックオフセミナーです。事業創造に必要な「自己変革の必要性」について、現在の経済情勢について学びながら自組合の課題について考えます。

【講習】

■著しいビジネス環境の変化

取り巻く環境が激変するような不確実性の高い時代にあっては、変化に対応できないビジネスは持続が困難となることから、それらに柔軟に対応する「自己変革力」が事業継続のカギとなります。

■「強み発見型」思考への転換

目先の課題の解決に特化した従来型の思考では、本当に必要とする対応が後手を踏む状況となります。自身の「強み」や「存在価値」を再確認し、「未来像」を描く「強み発見型」思考における課題解決への転換が重要です。

【ワーク】

■SWOT分析・クロスSWOT分析

経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つで、事業の状況を把握するために強み、弱み、機会、脅威の4項目を分析します。

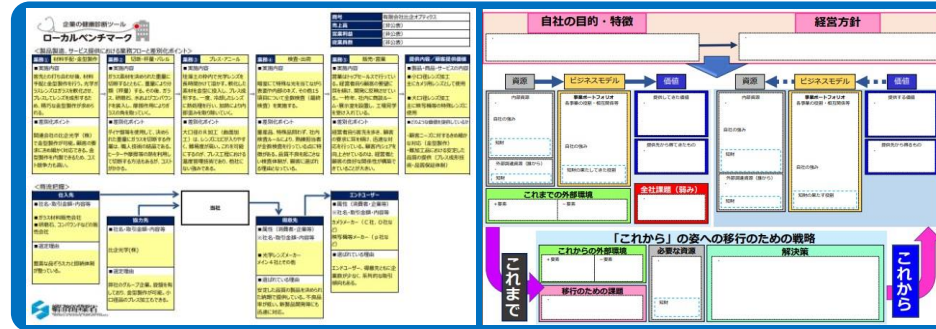


公募（4組合）

審査・選定を経て8月以降の以下の支援を行います。

8月29日（火）PM ▶▶▶ 集合研修

課題・目標設定を行います。検討方法については「ローカルベンチマーク」及び「経営デザインシート」等のフレームワークを用いて、担当する専門家と中央会指導員と共同で進めていきます。



進め方として、フレームワークへの落とし込み作業は担当する専門家が皆様の「思い」しっかりお聞きしたうえで行います。
ご参加の際には構えることなく、安心してご参加ください。



9月~2月 ▶▶▶ 個別支援（計5回の訪問支援）

集合研修において見えてきた課題・目標に対して実現可能性を模索しながら、解決方法及び取組方針の検討を行います。

【流れ】

- [1回目] 組合の思い・志・使命・夢・実現したいことを深堀します
- [2回目] 「5~10年後のあるべき姿」を描き、現状とのギャップを明らかにします
- [3回目] 取り組むべき経営課題を明らかにし、優先順位をつけます。
- [4回目] 優先度の高い課題について、課題解決の方法を具体化します。
- [5回目] 今後の組合活動の重点項目を明らかにします。



※上記流れは標準的なものであり、組合に合わせた最適な支援内容になるよう柔軟に対応する予定です。

5回の訪問支援だけでなく、支援間に中央会指導員によるフォローアップを繰り返し行い、より効果的に成果につながるよう支援します！

3月▶▶▶ 成果普及報告会

本事業の取組事例について、他組合への普及を行うことで組合全体の活性化につながることを期待できます。

【成果発表】

本事業の取組における成果を発表いただきます。本プレゼンは組合内部へ共有するためのツールとしても期待できます。

【ディスカッション】

本事業の成果に対して、意見交換を行います。新たな視点での気づきや改善点によりブラッシュアップができます。

